福祉たすけあい基金BOOK

13 期・14 期の助成団体紹介









公益財団法人 かなが	わ生き活き市民基金は		§	3
福祉たすけあい基金と	は		4	1~ 5
【第 13 期福祉たすけあい	い基金(第5期スタート!	助成)助成団体】		
ワーカーズコレクティ	ブわにわに(2回目申請)		7	7
NPO 法人みんなの居場	場所よこすか(2 回目申請	į)	(9
おはなしの風			1	10
ら・ぱれっと(3回目	申請)			11
横須賀まちの保健室プ	゜ロジェクト		1	12
NPO 法人おでかけ綾濱	頓		1	13
ぱくぱく食堂(3回目	申請)			14
NPO 法人結の樹よっ [~]	てけし(3回目申請)			15
ひだまりの家プロジェ	クト (2回目申請)		1	16
	·」(2 回目申請) ·········			
つばき学習会(3回目	申請)		1	18
【第 14 期福祉たすけあい	い基金助成団体】			
湘南とアジアの若者に	よる未来創造事業実行委	員会	2	20
相武台団地ひよここど	`も食堂		2	21
一般社団法人かわさき	社会的養育家庭をささえ	る会	2	22
つながるフェス実行委	:員会		2	23
NPO 法人よこはま地場	或福祉研究センター		2	24
子ども学習支援グルー	プ須賀の寺子屋		2	25
NPO 法人ARCSH	I P		2	26
富岡サロンジュピのえ	んがわ		2	27
財団を応援する「賛助	会員」募集と「福祉たす	けあい基金」への寄付の	りお願い… 28 〜	-29
賛助会員・福祉たすけ	あい基金寄付申込書			.30

公益財団法人 かながわ生き活き市民基金は…

◆成り立ち

食料・環境・福祉の分野での問題解決を、市民参加型ですすめてきた生活クラブ生活協同組合 (1971 年創立) は、90 年代初頭から、市民が時間・知恵・労力・いくばくかのお金を出し合って当事者となる参加型福祉運動を実践してきました。その担い手は主にワーカーズ・コレクティブという働き方を行う女性たちでした。

1990 年代当時、これら女性たちの意志ある社会貢献事業に資金を貸す金融機関は無いため、自前の財源による市民バンク(「女性・市民コミュニティバンク」の前身)をつくり、1998 年から市民事業への融資を始めました。

生活クラブ生協は 2003 年に組合員に呼びかけて、福祉たすけあいにかかわる市民の福祉活動・非営利の市民事業の基盤造成・活動支援を行うための組織「生活クラブ福祉たすけあい基金」を設立しました。そして「生活クラブ福祉たすけあい基金」の 10 年間の助成活動の実践を経て、2013 年にはこの事業を地域社会の中に押し出し、「公益財団かながわ生き活き市民基金」を設立しました。

◆ミッション

<投資して利潤を稼ぐことが経済>という考えが現代社会に蔓延しています。つまるところ、 人々の社会生活は「経済成長」に付き従うべきだという主張につながります。しかし一方で、豊かな生活をつくることが経済の目的で、お金はそのための手段であるという考え方があります。 人と人との関係の中に「温かいお金」を循環させようという主張です。

私たちの社会は、格差・貧困が野放図にすすみ、個人の権利や尊厳が、労働・教育・環境・平 和など生活の中心分野で損なわれつつあります。女性や若者、こどもや障がいを持つ人が生きに くい社会になっています。

かながわ生き活き市民基金は、ひとりでは支えきれない地域社会の課題の解決を、お互い様から始め、更に相互扶助に留めず、人・団体・活動を、お金や情報の循環でつなぎ、市民が持つ知恵・労力・時間・いくばくかのお金などの社会資源を拠出し合い、市民が共に力を合わせ、自立した「地域市民社会」をめざします。

◆基金の事業・活動

かながわ生き活き市民基金の中心事業は、市民による寄付造成とこれを財源とした助成を 通じた市民活動・事業への支援です。現在3つの助成プログラムを行っています。

福祉たすけあい基金(2015 年度から通常型助成とスタート助成を実施)は、意思ある生活クラブ組合員 1 万 1 千人の月 100 円寄付を基本財源とした助成プログラムです。事業指定助成プログラム「エラベル」は、登録した団体が寄付募集活動を行い、財団はこれを支援します。オーダーメイドプログラム(2015 年助成の「子どもいきいき助成」)は寄付拠出者が助成プログラムを指定します。

助成事業以外には、講座事業、ネットワーク事業などを行っています。

福祉たすけあい基金とは

福祉たすけあい基金はこれからの地域社会をつくっていくために、市民自らが福祉活動の主体となっていくこと、そしてその基盤となる市民同士がたすけあう関係を育て、地域を豊かにしていくことをめざして生み出しました。かながわ生き活き市民基金の助成事業の一つに留まらず、かながわ生き活き市民基金を支える基金です。福祉は人々の生活そのものと言ってもよく、福祉たすけあい基金では高齢者、子ども、女性、外国人、障がい者など様々な弱い立場の人々を支援する活動に助成しています。

・ 福祉たすけあい基金の特徴 ~ 1万人に支持される基金~

福祉たすけあい基金は市民一人ひとりから毎月(毎年)寄付を集め、おおぜいの力でまとまった額の基金を創りだしているのが特徴です。98%以上にあたる寄付が生活クラブ組合員1万人以上の毎月100円の寄付で寄せられています。これだけおおぜいの寄付者が趣旨に共感し、継続的に基金を支えていることは福祉たすけあい基金の最大の強みです。今後も顔の見える支持者をさらに拡げつつ、基金のミッションを伝え地域に拡げていかなければならないと考えています。

福祉たすけあい基金の助成事業

毎年 2 回助成を行います。1 申請上限 100 万円の助成(通常型)と、比較的小さなアソシエーション等の活動の立ち上げや、活動初期の基盤づくりを応援する「スタート助成」をそれぞれ 1 回ずつ行っています。福祉たすけあい基金にはこれまで 242 団体から約 1 億 1,700 万円の申請があり、地域で福祉たすけあいの市民活動を行う 153 団体へ約 5,000 万円を助成しました。

第 9 期からは「スタート助成」を既存団体の新規事業立ち上げにも拡げ、これによって既に 地域で活動実績を持つ団体が、これまでの実践を通して見えてきた新たな地域課題の解決にも活 用が広がっています。

	福祉たすけあい基金 ~通常型~	福祉たすけあい基金 ~スタート助成~		
福祉たすけあい基金 助成事業	福祉	スタート的成。		
助成総額	400 万円	500 万円		
1 件当たり上限	100 万円	40 万円		
活動回数の規制	なし	最長3回まで同一事業での申請可能		





第 1 期~14 期までの申請・助成実績

	助成時期	助成団体数	助成金額 (円)	申請団体数	申請金額(約万円)
第1期	2014年4月助成	9	4, 514, 100	34	2400
第2期	2015年2月助成	12	3, 944, 950	17	700
第3期	2015年5月助成	11	3, 822, 000	34	2400
第4期	2015年8月助成	13	3, 389, 131	20	1000
第5期	2016年3月助成	6	1, 667, 633	12	390
第6期	2016年8月助成	7	3, 245, 769	18	640
第7期	2017年4月助成	10	2, 493, 230	16	490
第8期	2017年8月助成	13	4,000,000	20	1000
第9期	2018年4月助成	16	4, 346, 100	24	740
第 10 期	2018年8月助成	11	3, 560, 382	19	859
第 11 期	2019年4月助成	14	4, 440, 364	15	508
第 12 期	2019年8月助成	11	3, 941, 072	13	611
第13期	2020年4月助成	12	3, 266, 759	13	393
第14期	2020年11月助成	8	3, 275, 903	10	544
	合 計	153	49, 907, 393	265	12, 675

赤字部分(5期、7期、9期、11期、13期)はスタート助成



申請事業活動の特徴

第1期から第14期までのべ153団体に助成を行ってきた中で、子ども食堂や学習支援など、 子ども・若者の貧困に関する活動を行っている団体や、高齢者福祉に関する活動団体が目立って います。また、障がいへの認知を広げる活動や障がいを持つ方の社会参加を支援する活動、ひき こもりのピアサポート活動からの申請もあり、人々に寄り添いたすけあいを進める幅広い活動に 申請が拡がっています。

第13期は、12団体中8団体と継続助成団体が多かったのが特徴です。第14期は、子ども関 係の団体が多かったのが特徴です。また、第14期は2020年度に行った新型コロナ対応応援助 成団体からの申請が3団体ありました。



市民活動の先駆性・有効性・持続性・参加性、そして社会を変える意気込みに期待

選考に当たっては、事業・活動の先駆性や有効性、持続性と共に、広く地域の人々や団体と連携 し、時間・知恵・労力・お金などを拠出し合い、市民が主体となり地域の課題を解決する参加性 が重視されます。また市民事業・活動を生み出し、育成し、事業拡大するだけでなく、市民の実 践を根拠にアドボカシー活動を行い、社会を変えていく志が拡がることが期待されています。

選考委員(敬称略)

委員長 手塚 明美 一般社団ソーシャルコーディネートかながわ 理事長

田中 夏子 イタリア協同組合研究者/農業者

川岸 卓哉 弁護士/(特非)原発ゼロ市民共同かわさき発電所理事長

友澤 ゆみこ (特非)ピッピ・親子サポートネット 理事長

小田 鈴子 元逗子市副市長/元逗子市議

高村 文子 横浜YMCA 国際・地域事業担当チーフディレクター

かわさき生活クラブ生協理事 鈴木 薫

君島 周子 かながわ生き活き市民基金理事・生活クラブ神奈川副理事長



第13期 福祉たすけあい基金 (第5期スタート助成) 助成団体



ワーカーズコレクティブわにわに (大和市)

代表 栗崎 静香

助成金額 400,000円

団体紹介

設立年月 2019年3月

団体の目的・活動内容

地域の人たちに、できるだけ自然に沿ったくら しを始めようとする気づきの場を提供したいと思い、地域に開く「コミュニティスペースわにわに」 を開所しました。

私たちは、子ども達が健康で、楽しく、希望を 持って生きられる社会づくりをめざしています。

活動歴

2017年 わにわに食堂開始

親子のひろばわにわに開所

2019年 みんなのスペースわにわに開所

団体情報

住所: 〒242-0028

大和市桜森3-4-13 さくらの森保育園分園

TEL: 046-204-7608

E-mail:tyanomac@outlook.com

URL:

https://www.facebook.com/waniwaniplace/

★助成した事業・活動

子どもも大人もともに育ちあう場「みんなのスペー スわにわに」 **★内容**

2019年4月開所したコミュニティスペースで、地域のニーズが高い親子のひろば、こども食堂、レンタルスペース、自主事業を継続していくために、親子のひろばとこども食堂は、収入が見込めない事業ですので、レンタルスペースの整備をし、利用拡大を目指します。

★助成対象

家賃の一部補助とオーブンレンジの購入費

助威をうけて・・・の思い・メッセージ

2019年5月、親子のひろば、こども食堂、レンタルス ペース等を行う「みんなのスペースわにわに」を開所し ました。地域のニーズが高い取り組みですが、ひろば 利用収入だけでは運営できない事業という課題があり、 今年度は、利用拡大を目指すため、オーブンレンジを 購入させていただきました。

残念ながら、新型コロナウイルスの影響で、コミュニ ティスペースはすべて閉所しましたが、こども食堂を利 用していた子どもたちを中心に週2回、2ヶ月間お弁当 を配布しました。その際オーブンを利用することが出来 ました。現在は、制限をしながら再開しましたが、安定 した利用になるには時間がかかりそうです。レンタルス ペース家賃の補助も運営のために心強くありがたいで す。レンタルスペース利用者の拡大や、様々なかたち のひろば事業の必要性を行政に訴えていきつつ、地 域のみんなが、子どもといる暮らしに喜び、感動できる 場をつくっていきたいと思います。











クローバーの会 (相模原市) 代表 木村 健

助成金額 241,464円

団体紹介

設立年月

2019年12月1日

団体の目的・活動内容

聴覚障害ゆえに情報が入りにくく、音声による意 思疎通が難しい聴覚障害者への災害時支援につい て、行政や関係機関に働きかけると共に、行政も含 めた市民に聴覚障害者の存在に気づいてもらい、 聴覚障害理解・聴覚障害者とのコミュニケーション 方法を広めるための活動を行い、聴覚障害者が安 心して暮らすことができる相模原市を目指す。 防災フェアや桜まつりを初めとするイベントで聴覚障 害当事者と市民が接する場を設け、聴覚障害者支 援の必要性・方法を体感してもらい、支援の輪を広 げていきたい。

活動歴

- 市の災害時障害者支援・対策の現状把握
- •他市•団体の災害時聴覚障害者対策の情報収集
- 市に対する質問書・要望書提出
- 総合防災訓練防災フェア出展
- 手話・要約筆記サークルとの学習会開催
- ・聴覚障害理解のためのリーフレット作成
- ・市内施設・機関へのリーフレット配架依頼
- バンダナ・ビブスの作成

団体情報

住所:相模原市

E-mail: sagamihara.4clovers@gmail.com

★助成した事業・活動

聴覚障害者と話してみよう!

★内容

災害時の聴覚障害者支援について、行政も 含めた市民に聴覚障害・聴覚障害者の存在に 気づいてもらい、聴覚障害者が求める支援に ついて理解を広めていくための活動。

★助成対象

会紹介パンフ、筆談入門ガイド、講演会チラシ 作成費、講師謝金、物品購入費

助威をうけて・・・の思い・メッセージ

初めて助成を頂きました。 ありがとうございます。 助成金でバンダナとビブスを作ることができま した。バンダナもビブスも、身に着けることで聴 覚障害があること・支援を求めていること、また は支援者であることが一目でわかり、外見から 陰実のなることがわからない聴覚障害者にとっ 障害のあることがわからない聴覚障害者にとっ ては、とても有効な手段です。

イベントなどで着用して、行政や市民に視覚 的に訴え、その効用の周知をはかってまいりま ˙。聴覚障害を知ってもらうためのリーフレット 「聞こえない人・聞こえにくい人にも安心して暮 らせる相模原に」も作ることができました。市民 の皆さんに聴覚障害理解・コミュニケーション方 法を広める大きな助けになると感謝しておりま す。助成をいただいたことで可能性の広がりを 感じると共に、より効果的な啓発方法を工夫し ていかねばどの思いを強くしています。



定例会

難聴者のための要約筆記、ろう者の ための手話通訳をつけて話し合います



昨年の防災フェア

聴覚障害者とのコミュニケーション を体験してもらいました



会のリーフレット

他にもビブス、バンダナなど 周知のための物を作りました

NPO法人みんなの居場所よこすか (横須賀市) 代表 木下 青子 助成金額 260,000円

団体紹介

設立年月

2018年5月設立総会 9月NPO法人認証

団体の目的・活動内容

今の社会に暮らす私たちにとって「つながり」はかけがえのない社会的資本です。

ささいなことを喜びあえる場、話しを聞いてもらえる場、生活技術や知識を楽しみながら交換出来る場を作りたいと考えました。そんな場があれば、出会いつながり、自分でも何か出来るかもと一歩踏み出してみたいという発想や主体が生まれます。居場所が必要な人々がホッと出来、いきいきと出来る場がまちには必要と考え「特定非営利活動法人みんなの居場所よこすか」を作り「み~なの家」を運営しています。

活動歴

2014年11月 居場所検討会結成 2016年4月 なかよし食堂開始 2017年4月 居場所準備会結成 2018年10月 み~なの家オープン

団体情報

住所: 〒239-0801

横須賀市久里浜1-6-8

TEL: 046-895-6989

E-mail:minayokosuka@gmail.com

★助成した事業・活動

み~なの家

★内容

これらの活動を継続し充実させていくための 継続申請

★助成対象

広報費(看板作成費)、講師謝金、 物品購入費

助成をうけて・・・の思い・メッセージ

かなが生き活き市民基金に積み立てと助成金活用の両面で2年目も参加出来て、市民基金の存在価値を実感しています。初年度は居場所のまずは必要な備品、2年目の今年度は私たちの居場所を地域の方に知ってもらうための看板、み~なの家に飛び込んで来た方たちの夢を実現するためのプロジェクターや絵本など活動ツールを助成金で整えることが出来ました。コロナ禍でも居場所を求める方たちは多く活動が豊かになりました。











おはなしの風 (横浜市) 代表 森川 美代子 助成金額 394,065円

団体紹介

設立年月

2014年7月1日

団体の目的・活動内容

赤ちゃんからシニアの方の方を対象に、絵本の心に寄り添い、癒す力をいかして、夢を育み、心を癒し、 笑顔が生まれる事を、目的とします。

音楽と共に絵本を読む『コンサートリーディング』を 中心とした絵本のイベントを開催、みんなの居場所 みんなの絵本のおうちの運営をしています。

活動歴

2014年

コンサートリーディングを学び、絵本を読み始める。 2016年

コンサートリーディングによる絵本の時間を届ける 為に、『おはなしの風』設立。

2017年

コンサ子育て支援を目的に、『もりちゃんの絵本のおうち』をオープン。

2020年

泉区に、多世代交流を目的に、『みんなの絵本のおうち』をオープン

団体情報

住所:横浜市泉区和泉中央南5-4-11 電話番号:045-295-2104

メールアドレス : picturebookshouse@gmail.com URL:http://minna-ehon-ouchi.sakura.ne.jp/

★助成した事業・活動

みんなの絵本のおうち

★内容

より多くの方に、絵本のおうちを知ってもらうことができ、いつでも、必要な時、必要な方に絵本の時間を 提供でき、多世代の方が集まり交流する居場所作り。

★助成対象

オープニングイベント、物品購入費

助威をうけて・・・の思い・メッセージ

わたし達は、助成を受けて、2020年7月、助成を受けて、みんなの絵本のおうちを、オープンいたしました。 みんなの絵本のおうちは、赤ちゃんからシニアの方を対象とし、絵本の効果をいかし、多世代交流が生まれ、心のケアを目的としています。木の温もりを感じる壁一面の棚に、約4000冊の絵本が季節やテーマごとに飾られ、優しい空間となっています。親子、シニアだけでなく、学生、ビジネスパーソンなどあらゆる世代の方が、絵本を通して自分を見つめ、ランチやお茶を楽しみながら、くつろぎと癒しの時間を持つ事ができます。実際にコロナ渦、絵本が作り出す癒しの力は、温かく心に寄り添い、元気や笑顔が生まれています。お陰様で、35人ほどのボランティアに、サポートいただいています。

参加する人、サポートする人。全ての誰もが主役となり、安心して居ることができ、一人一人が、自分自身を大切に思い、そしてお互いを大切に出来る場となり、 みんなの絵本のおうちが、優しいまちの灯りの場となればと思います。











ら・ぱれっと (茅ヶ崎市) 代表 重田 扶美子

助成金額 310,000円

団体紹介

設立年月

2015年10月

団体の目的・活動内容

10数年にわたりリユース・リサイクル事業や保育事業を行ってきた市民が、空き家を借り、地域の多世代交流スペースを開催。

活動歴

2015年秋から、茅ヶ崎市十間坂の古民家を借りて活動。地域に根ざした様々なイベント開催、フリースペース事業を行っています。

団体情報

住所: 〒253-0045

茅ケ崎市十間坂3-10-36

TEL:0467-83-2871

URL: http://la-palette.org

★助成した事業・活動

お母さんと赤ちゃん、シニア女性たちの集える カフェ事業と若者の居場所づくり

★助成対象

エアコン購入費、家賃補助、講師謝金

助成をうけて・・・の思い・メッセージ

今年度は貸しスペースとしての利用を進めるための環境整備として、新しいエアコンを購入させて頂きました。そして、3年間家賃補助としての助成をいただけたことが、活動を続けるに当たり大変大きな助けになりました。ミシンカフェやお母さんと赤ちゃんカフェに参加した方たちが自分たちで企画をして、ら・ぱれっとを使って集まるようになり、これから、という時に新型コロナウイルス感染・・・。こんな状況の中ですが私たちにできることを探しながら活動を続けていければと願っています。





ありがとうございました。









横須賀まちの保健室プロジェクト (横須賀市) 代表 板垣 亜矢子 助成金額 66,050円

団体紹介

設立年月

2019年12月設立

団体の目的・活動内容

生活の身近な場所で医療の専門家が関わり、健康に対する意識の向上や病気の予防・早期発見につなげることを目指して活動を始めた。地域のコミュニティスペースやカフェなどに、コミュニティナース(地域で活動する看護師)が定期的に滞在し、無料で医療や介護などに関する相談ができる「まちの保健室」を開いている。

活動歴

2018年7月より有志で集まった看護師にて「まちの保健室」を開催。横須賀市内4か所にて、定期的に 月6回活動している。

団体情報

E-mail: hr.yokosuka@gmail.com

URL:

https://www.facebook.com/yokosukahokenshitsu

★助成した事業・活動

医療専門職(コミュニティナース)によるまちの 保健室を中心とした無料相談活動の組織化

★助成対象

通信費、スタッフ交通費、パンフレットの作成 費用

助威をうけて・・・の思い・メッセージ

看護師として働いていた頃から、病院や施設にいるだけでは患者さんやご家族のことをフォローしきれないジレンマを抱えていました。そんな思いや経験から無償ボランティアで始めた活動ですが、続けるほどに医療の専門家が地域で必要とされていることを感じています。

健康や医療・介護に関する疑問や不安を伺う中で、必要な知識を知る機会が不足していること、医療機関や行政だけでは拾いきれない声があることなどを改めて目の当たりにしました。それらに対応していくことが、地域の方々がより長く元気で暮らすためのサポートになるのではないかと思います。

ないかと思います。 今回助成していただいたことで、これまで個人 負担となっていた必要経費を補うことができました。現在の活動を継続していきながら、長く続けていくための体制づくりと、行政や各専門機関 との連携を進めていきたいと思います。









NPO法人おでかけ綾瀬 (綾瀬市) 代表 柴田 雄二

助成金額 400,000円

団体紹介

設立年月

2019年11月設立

団体の目的・活動内容

することを目指して行きます。

かりまでは、 か助と運転が一つになったサービスを提供する市民参加の福祉有償運送(移動サービス)を 主活動とし、高齢者や障がい児者が今まで行きたくても 行けなかった買い物やイベント、役所や 病院などに、いつでも安心して外出できる様サポートする ことで、綾瀬市民としていつまでも自分 らしく安心して暮らせる事業とします。 また、移動サービス事業を核として、地域市民や福祉団 体、福祉従事者等が一体となって地域

活動歴

・2019年11月にNPO法人設立後、2020年4月事業開始に向け情宣活動や学習会を実施。

を支えることで、地域に欠かせない社会資本として構築

- ・2020年2月運営協議会を経て4月より移動サービス事業開始。
- ・コロナ禍で様々な制約がある中、綾瀬市には外出支援を必要とする利用者さんが多く、10月時点での利用会員は43名、運行回数も着実に増加しメンバー全員で対応にあたっている。

団体情報

住所: 〒252-1107 綾瀬市深谷中7-25-3

TEL: 080-7610-3367

E-mail:npoodekakeayase@yahoo.co.jp

★助成した事業・活動

福祉有償運送(移動サービス)

★内容

新規事業の立ち上げ

★助成対象

助成申請は、物品購入、人件費(交流室活動費)、 広報、通信費

助威をうけて・・・の思い・メッセージ

「困ったときはお互い様」の精神を尊重して人の心に寄り添ったケアを地域に広げるために、市民参加の移動サービスを主体とした事業を行い、地域の活性化や地域住民の生活向上に寄与することを目的として立ち上げた『NPO法人おでかけ綾瀬』ですが、4月からの事業開始時にはいきなりコロナ禍が降りかかりました。発定していたおでかけ企画や団体交流などは残念ながら中止を余儀なくされましたが、通院や買い物などの利用者さんが必要とするご依頼には順調に対応してきております。

時にはいざなりコロナ個か降りかかりました。す 定していたおでかけ企画や団体交流などは残 念ながら中止を余儀なくされましたが、通院や 買い物などの利用者さんが必要とするご依頼 には順調に対応してきております。 生き活き助成を受けて、利用者さんとの連絡 や運行に必要となる通信機器や車両表示板、 パンフレットやチラシ作成等、移動サービス事 業に欠かせない物品費等へ活用させていただ き、我々の事業活動がスムーズにスタートでき たと実際しております。ありがとうございました。

今後のコロナ収束に向っては、おでかけ企画 など利用者さんの生活向上につながる活動を 計画して、おでかけ綾瀬のさらなる事業拡大に つなげて行きたいと思います。











ぱくぱく食堂 (綾瀬市) 代表 斎藤 輝美

助成金額 120,000円

団体紹介

設立年月

2017年10月設立

団体の目的・活動内容

食べることを通して、人との関わりを繋げたいとの 思いから、「ぱくぱく食堂」を立ち上げました。孤立や 貧困家庭が増える中でも、一人じゃないと感じること で親も子も安心でき、成長できると思っています。子 どもが幸せに生きられる地域づくりをめざして、まず はできることから始めようと考えました。綾瀬市内で はまだ子ども食堂は1カ所しかなく、参加しやすい場 所にある福祉プラザで開催しています。一緒にご飯 を食べたりする場をつくり、いろいろな人と関わり、 子どもとお母さんたちのための食堂づくりをめざしま す。

活動歴

2017年10月より、生活クラブあやせセンターー内で月2回ランチタイムに「ぱくぱく食堂」を開催。 2018年1月より、保険福祉プラザに開催場所を移す

2018年10月より、日本語教室「キッズかけはし」 へのおやつ提供

2019年3月より、市の推進課との連携での開催(不 定期)

2020年10月より、日本語教室「キッズなかよし」へのおやつ提供

団体情報

TEL:080-3721-8989

E-mail:shokudoupakupaku@gmail.com

★助成した事業・活動

子ども食堂「ぱくぱく食堂の運営」

★助成対象

スタッフ交通費

助威をうけて・・・の思い・メッセージ

今年度で3度目となります。続けての助成を受けることができ、心より感謝申し上げます。2年間活動してきたことをいただいた助成金を活用させていただきながら、さらに拡めていこうとメンバーー同気持ちを新たにし活動を続けている「食べる場を通して人との関わりを繋げる」ということが思うよう活動できずにはいますが、外国籍児童の日本語教室へのお菓子提供は継続しながら、更に拡げていくことができました。思うように活動できずにいますが、活動を継続しながら、自分達ができることを探りながら、今後も絶やすことなく「ぱくぱく食堂」を地域に根付かせて行きたいと思っています。3年間の支援、ほんとうにありがとうございました。











NPO法人結の樹よってけし(清川村) 代表 岩澤 克美

助成金額 400,000円

団体紹介

設立年月

2015年10月設立

団体の目的・活動内容

高齢者も障がい者も地域で安心して暮らし続けられるよう、地域交流を基本とした生活支援等を目的に、人と人が繋がりお互い様の関係が繋がる社会づくりを目指す。村内でも特に転入者が多くコミュニティーが希薄な清水ヶ丘団地に、住民同士がいつでも繋がれる居場所として空き家を改装した「よってけし」1号店を開設。現在は団地住民が主体となり、週3回サロン活動と趣味の講座を運営している。2019年10月から築180年の古民家を大学生と共にリノベーションした「古民家カフェよってけさん」2号店を開設。ここは地元住民が住む超高齢化地区で孤立化を防ぐため、周辺の農地を活用した人との繋がりを生むイベントを開催している。住み慣れた地域で互いに支え合いながら安心して生活できる環境を目指し、高齢化に直面する村の課題解決のモデルになるよう活動している。

活動歴

農産物加工・販売事業/住民交流事業/出張美容院事業/地域就労支援事業/食事提供及び弁当宅配・販売事業/地域安全見守り事業

団体情報

住所:1号店 〒243-0112愛甲郡清川村煤ヶ谷1103-51 NPO法人結の樹よってけし

2号店 〒243-0112 愛甲郡清川村煤ヶ谷3837 古民家カフェよってけさん

TEL: 046-288-2595

Mail:yottekeshi@kbh.biglobe.ne.jp URL:https://yottekeshi.jimdo.com/

★助成した事業・活動

長年住み慣れた地域で安心して生活できる環境 づくり

~つなぐ・つながる・支え合う 小さな村のたすけあい活動~

★助成対象

イベント開催費、広報費、看板設置費用

助成をうけて・・・の思い・メッセージ

継続3年間応援頂き感謝します。小さな村の大きな課題解決の為、新たに「古民家カフェよってけさん」を立ち上げ、村内外から大勢の方々にご来店頂いています。「人と人が繋がる」をコンセプトに食や雰囲気を堪能頂きながら、お客様に私達の活動や想いを伝える活動をしています。その中で多様な方と繋がりご縁を紡ぎながら組織が成長し、基盤固めができつつあることをご報告します。

コロナ禍で計画通りいかずもがきながらも、古 民家周辺に広がる農地を活用したイベント活動 は継続して行っていきます。新たな山羊の親子 も仲間入りし、地域住民と村外の方々との交流 を深めるいいきっかけ作りができました。私達 の活動がムーブメントを巻き起こし、地域活性 化に貢献できるよう頑張ります。











ひだまりの家プロジェクト(座間市) 代表 鈴木 博美

助成金額 290.180円

団体紹介

設立年月

2018年6月設立

団体の目的・活動内容

ひだまりの家を拠点とし、地域の居場所をつくっていくことを目的とする。座間コモンズ、子育て応援団体アクティヴ・ママ、家主の3者で結成している。地域交流カフェ(さんさんカフェ)や子育てサロン、こども食堂、学習支援などの活動をそれぞれの団体が行っている。

活動歴

2018年~

子育てサロン、こども食堂、地域交流カフェ 2019年~学習支援

団体情報

住所: 〒252-0024

座間市入谷西2-20-15 ひだまりの家

E-mail:hidamarinoie_zama@yahoo.co.jp

★助成した事業・活動

交流スペースの活用に向けた改装

★助成対象

床張り替え費用

助威をうけて・・・の思い・メッセージ

今回の助成金で1階スペースの床張り替えができ、マットや配線でデコボコしていた床がフラットになりました。これにより、ひだまりの家の利用者の怪我のリスクが減り、清潔で居心地の良い空間を保つことが出来るようになりました。昨年いただいたエアコン設置の助成と合わせ、季節を問わず快適に活動できる環境になりました。

現在は感染防止対策をしながら、地域交流カフェや子育でサロン、こども食堂、学習支援などの活動を再開しています。今まで通りの活動とはいきませんが、その中でも少しずつですがひだまりの家が認知され、地域の方に足を運んでいただいています。今後も多くの方の居場所になるよう地域課題に寄り添った活動をしていけたらと思います。本当にありがとうございました。













子どもひろば「みらい」 (鎌倉市) 代表 戸田 美智子

助成金額 85,000円

団体紹介

設立年月

2018年1月設立

団体の目的・活動内容

鎌倉デポー集会室を活用し、小学生の放課後の 居場所をつくりたいと考え、地域の意志ある人たち と、子どもひろばみらいを設立した。

活動歴

第9回福祉たすけあい基金へは、設立後の広報費、 講師謝金を申請し助成した。

団体情報

住所: 〒248-0022

鎌倉市常盤165-1 鎌倉デポー2F

TEL:080-6781-7871

E-mail:green_fields_mck@yahoo.co.jp

★助成した事業・活動

「みらい文庫」の開設

★助成対象

図書購入費用とパンフレットの作成費用

助成をうけて・・・の思い・メッセージ

"地域の子どもたちを、地域の大人が見守り、 育んでいきたい"そんな思いから、放課後の子 どもたちの居場所をオープンし3年が経ちました。 この間、小学校の敷地内に放課後自由に過ご せるアフタースクールと学童保育が併設された 場所が建設され、近くには民営の学童保育所も できました。子どもひろば「みらい」に通う子たち も、平日はアフタースクールで時間を過ごし、木 曜日は「みらい」に来てボランティアのおばさん たちとのんびりしています。子どもたちにとって、 放課後自分が過ごしたい場所が複数あり、選 べるのは良いことだと思います。今回生き活き 市民基金スタート助成をうけて、『みらい文庫』 という小さな本のスペースをつくりました。これ から読み聞かせの日なども計画していき、小さ な子どもたちから大人まで、おおぜいが集まり ホットできる時間をつくっていきたいと思います。











つばき学習会 (川崎市) 代表 吉原 崇徳

助成金額 300,000円

団体紹介

設立年月

2017年7月設立

団体の目的・活動内容

・団体の目的は次の二点です。①川崎市内の小学生に家でも学校でもない勉強や遊びのための居場所を提供すること。②川崎市内で小学生を教育する学校や家庭などの抱える負担を軽減させること。

・助成を頂いた活動は、学習支援と居場所の提供です。誰にでも開かれた地域福祉活動拠点等での教室や、他団体に訪問して行う支援があります。前者は身近な見守り活動も担っています。

活動歴

2017年度)団体立ち上げ、幸区教室と地域療育センターへの訪問活動を開始

2018年度)児童養護施設への訪問活動と地域向けイベントを開始

2019年度)メロディココ教室、川崎区教室、子ども食堂への訪問活動を開始

2020年度) 母子生活支援施設への訪問活動を開始

団体情報

住所: 〒232-0071

横浜市南区永田北2丁目18番地5号

TEL: 080-6585-0880

E-mail:tubaki-gakusyusitu@outlook.jp URL:https://www.tsubaki-gakushukai.com/

★助成した事業・活動

つばき学習室

~学習支援、アウトリーチ+体験活動~

★助成対象

スタッフ交通費

助成をうけて・・・の思い・メッセージ

この度は福祉たすけあい基金をいただきありがとうございます。

教室は単なる勉強するだけの所ではなく、そこにいる人達にとっての大事な居場所です。活動を続けていくことでその意味が深まっていくのを実感しています。ある子どもは学習が追い付いてきたり、また別の子どもは色んな大人とも話せるようになったり、それから「こんな自分でもやっていけるのかも」と思えるようになったり。貴基金をご配分いただけましたことで、これから大人になる彼らにとっての"微かでも掛け替えのない思い出"が、生まれ続けていると信じでいます。

運営のうえでも生活クラブの皆さんとの大事なつながりを持てました。メロディココさんのおかげで、このご時世にも関わらず、子どもの学びを止めずに今までやってこられました。立ち上げ時から3年間、貴基金にはお世話になりました。これからは、皆様とのネットワークのために、どこかで微力ながらも恩返ししができますと幸いです。









第 14 期 福祉たすけあい基金 助成団体



湘南とアジアの若者による未来創造事業実行委員会 (藤沢市) 代表 和賀井 稔 助成金額 300,000円

団体紹介

設立年月

2014年4月設立(前身の「インドネシア・湘南若者交流事業」は約30年前から)

団体の目的・活動内容

・アジアと湘南の若者の交流による、相互の国の 素晴らしさの共有。(湘南プログラム)

・アジアと湘南の若者による、過去の戦争の事実 の協働学習、将来の平和構築のための国際連帯活動(平和交流プログラム)

アジアで日本語を学ぶ学生2~3名を湘南に招聘しての中学校での文化照会。(約50時間)

上記両国の若者による戦地訪問(広島・沖縄・知 覧等)による調査・学習。それをまとめたものを

湘南の中学校5校程度の学年集会(200名程度)での平和交流集会の実施。アジアでの被爆者講演、ひめゆり平和館や知覧特攻平和館の学芸員によるアジアでの講演の実施。

活動歴

「湘南プログラム」、「平和交流プログラム」の実施スローガン【吹け教室にアジアの風!】 広島被爆者のアジアの2大学での講演会の実施

「神戸・広島 子供たちの旅」地域の子供たち40 人程度と神戸・広島を訪問し学習する

「いざ、東北! ふれあいの旅」震災後の気仙沼。 仮設住宅に残されたお年寄りとの交流

団体情報

住所: 〒252-0813 藤沢市亀井野2-3-17

TEL: 0466-82-0290

Mail:minoru wagai@yahoo.co.jp

★助成した事業・活動

インドネシア・湘南若者交流事業「平和交流プログ ラム」

★内容

インドネシアより7名の学生を受け入れ、沖縄、広島を訪問、湘南での小中学校(2校)との交流(講演)を行う。

★助成対象

旅費(航空運賃)の一部

助成をうけて・・・の思い・メッセージ

たくさんの資金援助ありがとうございます。私たちの活動のキーワードは、若者、平和、アジアです。

私は多くの若者と平和について語る機会があります。若者の疑問として、「なぜアフリカや中東では、食料や薬がなく、安心して暮らせる家もなく、基礎学力を身に付けるための学校に行けない子供たちがいるのに、大量の兵器が世界にあるのだろうか」というものがあります。少し前のユニセフの報告では、世界の子供たちず生存するため、人として最低限の学力を保証するための1年分の費用は、世界が使う軍事費の1日分より少ない額だそうです。 今、77億の世界人口は毎年8000万ずつ上積みれ、世界名地で気候変動が起きています。

今、77億の世界人口は毎年8000万ずつ上積みされ、世界各地で気候変動が起きています。今こそ、この兵器に使われているお金を、人としてのニーズが満たされない人へ回すこと、優秀な頭脳を人の命を奪う行為より、命を生かすために使うべき時です。私たちの活動がこうした方向へ進むための小さな一歩となるよう日本、アジアの若者の交流を進めていきたいと思っています。







インドネシアの子どもたちに送る文房具を送るポシェットを作成



インドネシアの日本語学科の大学生に広島・長崎を訪れた話をする

相武台団地ひよここども食堂 (相模原市) 代表 澤谷 いつ子

助成金額 529,000円

団体紹介

設立年月

2017年9月設立

団体の目的・活動内容

見えない貧困、子供の虐待、生活困窮者、行政の 目の届かない視点で主に食事のサポートを 目的とする。

活動歴

毎月の子供食堂の開催、本の読み聞かせ、食事後の親子でのワークショップ 昨年の政府自粛時には地域の学童保育への毎日 お昼の食事支援 生活困窮者への食材配布

団体情報

住所: 〒252-0323

相模原市南区相武台団地2-3-5

TEL: 046-404-0540

Mail: hibaricafe@hotmail.com hiyokohiroba235@gmail.com URL: http://hibaricafe.jimdo.com

★助成した事業・活動

子供食堂拡大及び地域活性化に向けた 新規事業の開始

★内容

「夕暮れダイニング」「断捨離マーケット」「地域 活性化交流イベント」の3事業を開始する。

★助成対象

物品購入、広報費

助成をうけて・・・の思い・メッセージ

この度、第14期福祉たすけあい基金より助成金を頂き仲間一同感謝申し上げます。活動を始めて4年目に入りましたが、5~6名から始めた仲間たちは現在16名まで増え、今年は地域の大学の学生さんもボランティアとして参加して頂ける様になりました。

「何も無いゼロから始めた子供食堂ですが、会を重ねるごとに地域の皆様、個人農家さん、養鶏家さん、農協さん、企業様、フードコミュニティー、お肉屋さんと、本当に子供食堂の活動にご協力頂いている皆様のお陰で私たちの活動は成り立っています。その為にも子供食堂の実情、多くの方々のご協力を広く知って頂きたいと、広報活動にも力を入れていきたいと考えています。

知って頂きたいと、仏報の事がこのがとれないというにいと考えています。 昨年はコロナ禍により活動の変化がありました国の自粛要請が出て不安な中開催すべきか否か、子供達の学校が休校になった時は1か月間無償のお昼ごはんを作り続けました。それが出来たのはボランティアの仲間がいたからです。

無邪気に遊ぶ子供達の姿を見ると、ここからコナの感染者を出してはならないとの想いでした。お陰で仲間たちの意識と絆がコロナ禍でも変化に対応できる子供食堂継続ができました。子供食堂の(みんなの食堂)の重要性を更に強く感じた次第です。生活困窮者も増え、食堂のご飯を楽しみにしている子供達、高齢者の居場所としてこれかも活動を続けて行く覚悟です。









一般社団法人かわさき社会的養育家庭をささえる会(川崎市)

代表 石井 啓子

助成金額 272,710円

団体紹介

設立年月

2020年5月設立

団体の目的・活動内容

実の親と暮らせない社会的養育の子どもたちが、いきいき健やかに成長し自立できるよう、子どもの権利とニーズを優先しながら、子どもたちを育む養育里親や特別養子縁組で子育てする親を支える活動を行っています。

活動歴

2020年度特別養子縁組コミュニティサロンを、 川崎市高津区役所との協働事業で開催しました。

団体情報

住所: 〒213-0033

川崎市高津区下作延1-1-7

TEL: 080-3754-3008

Mail: info@kawasaki-foster.org

URL: http://www.kawasaki-foster.org/

★助成した事業・活動

「さとおやメンター」育成事業

★内容

里親10名を対象に全6回のメンタートレーニングを実施し「さとおやメンター」を養成する。

★助成対象

講師料、資料印刷費、会場費

助威をうけて・・・の思い・メッセージ

親と暮らせない子どもを育む里親には質の高い養育が求められます。しかし、心に傷を負った子どもの養育には負担感が生じやすく、里親たちを支えるシステムが必要です。里親支援機関はたくさんあるのですが、里親の心をささえるようなタイプの支援機関はありませんでした。

団体は設立したばかりですが、里親によるピアサポートの必要性については、長い間里親仲間で話し合ってきたことでした。今回助成をいただけたことで、取り組みの一歩を踏み出すことができ、大変感謝しています。

2021年2月にトレーニングをスタートし、13名のキャリアのある里親さんが参加してくださっています。ひとつひとつ丁寧に実施し、学びの機会ではありますが、受講者の皆さんが楽しかったと思っていただけるようなトレーニングにしたいと思います。







つながるフェス実行委員会(相模原市) 代表 勝亦 詩子

助成金額 187,866円

団体紹介

設立年月

2019年7月設立

団体の目的・活動内容

多胎(ふたご、みつご)妊娠・出産・育児の支援。子育て支援は充実してきていますが、単胎児を想定したものが多く、多胎妊娠・出産・育児の情報は少ないです。多胎妊娠出産はリスクが高く、産後の育児は想像以上に大変です。2人以上を同時に生み育てるイメージを持ってもらい、安心して育児ができる環境をつくるために、私たちは人と地域をつなげる交流の場を作っています。多胎育児のおしゃべり会や勉強会、ふたごのフリーマーケットなど、多胎育児に必要な情報・モノ・コトを一堂に集めた多胎育児の祭典を開催します。

活動歴

おしゃべり会、クリスマス会、外遊び会 ふたごのフリーマーケットなど

団体情報

Mail:tataifestsunagaru@gmail.com URL:https://tsunagarufes.jimdofree.com/

★助成した事業・活動

「つながるフェス ふたごみつご and more in さ がみはら」

★内容

本イベントを通して多胎育児を地域に知ってもらい、支援の充実を図るきっかけにする。

★助成対象

師謝金、会場費、ボランティア謝金

助威をうけて・・・の思い・メッセージ

この度は助成いただき誠にありがとうござい ます。役員メンバーは全員双子の親です。授乳 とおむつ替えの繰り返しで寝られない毎日を過 ごしたり、イヤイヤ期2人相手でイライラを募ら せたり、大変な時期もありました。育児ストレス が生まれてきた喜びを上回る時もあります。特 に多胎育児の乳幼児期はそんなことが起こりや すいです。なので、ひとりで子育てしない、孤育 てさせないよう、家族がつながり、地域とつなが り、仲間とつながる場と機会をつくっています。 多胎妊娠・出産・育児にまつわる情報を共有す るだけでなく、大変な時も嬉しい時も分かち合え る人がいる、ひとりじゃない誰がそばにいると思 える、そんな子育て環境の一助になれるよう、 地域に密着した支援を続けていきたいと思いま す。













NPO法人よこはま地域福祉研究センター(横浜市) 代表 豊田 宗裕 助成金額 834,730円

団体紹介

設立年月

2012年10月設立

団体の目的・活動内容

特定非営利活動法人よこはま地域福祉研究センターは、地域社会に開かれた研究組織として、また、中間支援団体の側面を持って、明日の地域社会の諸問題を、多様な人や団体と共に解決と発展を目指し活動するために設立しました。

活動歴

- 1)子どもの地域生活支援プロジェクト 子ども・若者の居場所づくり事例集/居場所づくり課題 解決ケースブック/学習支援担い手研修他
- 2) 障害者と家族の地域生活プロジェクト 障害者の保護者のための相談交流の場「キャンデイレイ」/作業所自主製品販売促進事業「フードプレゼン」/社会福祉法人研修他
- 3)社会教育・福祉啓発プロジェクト 地域介護教室/新しい時代のボランティア育成/地域 福祉保健計画策定に関するコンサルティング他
- 4) 福祉サービス第三者評価 保育所/障害者グループホーム/高齢者施/社会的養 護施設
- 5)委託事業 横浜市里親研修/横浜市地域包括支援センター職員 研修他

団体情報

住所: 〒231-0013

横浜市中区住吉町2丁目17番地金井ビル2階

TEL: 045-228-9117

Mail: top@yresearch-center.jp URL: http://yresearch-center.jp/

★助成した事業・活動

「子ども・若者の育ちと自立を支える活動」の普及・ 啓発及びその担い手・組織の人材養成事業

★内容

市民・専門職の人材育成

★助成対象

人件費、諸謝金

助威をうけて・・・の思い・メッセージ

当研究センターは、2018年9月から2020年5 月まで、「子ども・若者の育ちと自立を支える活 動調査」を県内300を超える市民活動団体を対 象に行い、改めて、今日、乳幼児、児童期、青 年期を経て、成人となる育ちのプロセスに様々 な課題が生じていることがわかりました。適切 な育ちの環境を得られず、学習の遅れ、健康問 題、人との関係性の築きにくさなど、負の影響 を長期にわたって受け続ける子どもは、自尊感 情を持ちにくく、自分の未来に夢を持ちその実 現のために主体的に考え、行動する力が弱くな ります。そして調査からは、市民活動団体がこ れらの課題に気づき、地域だからこそできる継 続的な伴走支援を行っていることもわかりまし た。今回の助成を受け、子どもやその家庭の身 近な地域における課題発生予防、及び、課題 解決に向けた活動の普及・啓発を行うと共に、 その活動に参画する市民・専門職の人材育成 の場を提供したいと思っています。







活動者懇談会を開催し、それぞれの活動の中で気づいた、子どもの個別課題について、その現状と背景、 支援の方法やその課題について意見交換を行いました。

子ども学習支援グループ須賀の寺子屋(平塚市) 代表 大野 文 助成金額 671,597円

団体紹介

設立年月

2016年12月設立

団体の目的・活動内容

家庭学習や自主学習に何らかの問題を抱えているために学校で楽しく勉強できず、通常授業について行かれなくなっている小中学生を対象に、学習支援員と個別に楽しく学習することで、子どもたちの学習意欲と学力向上を図り、学校生活を意欲的に送れるようになることを目指しています。

活動歴

毎月2回の小学生寺子屋と毎月3回の中学生寺子 屋を開催しています。

今年度は緊急事態宣言を受けて、中学生全員に タブレット端末を貸出してオンライン学習を取り入れ たり、教材を郵送して添削したりするなどの学習支 援活動を実施しました。

団体情報

住所: 〒254-0802

平塚市札場町46-4 大野方 TEL: 080-6626-2686 (大野) Mail:sukanoterakoya@gmail.com

URL: https://sites.google.com/view/sukanoteragoya

★助成した事業・活動

オンライン学習を利用した中学生のための 学習支援

★助成対象

物品購入、研修費用、教材作成費

助威をうけて・・・の思い・メッセージ

でつ改善しながら活動しています。 人との交流がしづらい中で、子どもを孤立させないオンライン学習支援は、極めて重要な活動になって来ていると思います。ご支援いただきました助成金で、より多くの子どもへの学習支援活動を展開させていただきます。ご支援いただきました関係の皆様に心より感謝を申し上げ

ます。ありがとうございました。





オンライン学習支援中の学習支援員



オンライン学習中の中学生



対面学習の感染防止対策

NPO法人 ARCSHIP(横浜市) 代表 長谷川 篤司 助成金額 280,000円

団体紹介

設立年月

2002年12月設立

団体の目的・活動内容 「音楽でたくさんのハッピーを創る」を合い言葉に、プロアマを問わず様々なジャンル(ジャズ・クラシック・ポップス・伝統芸能・民族音楽など)の音楽イベントや社会人ミュージシャンのライブイベント、バンドコンテスト、子育て支援や多様性の発信を軸とする音楽イベントなどを、商業施な駅前、公園、ライブハウス、ホールなどで開催している。

活動歴

2001年 社会人ミュージシャンのためのライブイベント「おとバン」をス

タート 2002年 NPO法人アークシップの発足 2002年 バンドコンテストイベント「YokohamaHOOOD!!」の定期開催 2007年 人と街を音楽でつなぐ「横浜音楽空間」の定期開催 2007年 「横濱JAZZ PROMENADE」にスタッフ参加スタート 2009年 ジャンルも国も世代もごちゃまぜな「ホッチポッチミュージック フェスティバル」スタート 2010年 横浜に実顔を子どもたちに笑顔を音楽で笑顔を「ヨコハマアコ

フェス」スタート 2013年「ハマフェス(旧 横浜セントラルタウンフェスティバル)」スタッフ

2014年 日本の伝統芸能を身近に感じる「神楽坂まち舞台・大江戸めぐ

り」スタッフ参加スタート 2016年 横浜音祭り「街に広がる音プロジェクト」20超の音楽ステージ

2018年 Dance Dance | 横浜ダンスパラダイス J20超のダンスス

テージ企画運営及び事務局 2019年 横浜音祭り「街に広がる音プロジェクト」30超の音楽ステージ

企画運営及び事務局 2020年「横浜文化プログラム運営事務局」25超の音楽&ダンスステージ企画運営及び事務局

ン正回注言及び事が同 多様性の発信を主とした「ごちゃまぜ推進活動」を独立した事 業としてスタート 2020年

団体情報

住所: 〒231-0014

横浜市中区常盤町1-1 宮下ビル4F

TEL: 045-323-9351 Mail: info@arcship.jp

URL: https://www.arcship.jp

★助成した事業・活動

ホッチポッチミュージアムフェスティバル2020を多 様な人が集う音楽祭にするための「真のごちゃまぜ 推進活動及び活動報告会」

★助成対象

報告会会場費、報告書作成費、WEB作成費

助威をうけて・・・の思い・メッセージ

この度は「真のごちゃまぜ推進活動及び活動 報告会」にご支援いただきありがとうございます。 私たちは音楽イベントの企画運営を行っていま す。様々なお客さまと接するうちに「多様性」に ついて考える機会が増えました。「真のごちゃま ぜ推進活動」を通して、国籍や世代・性の認識・ 障害の有無などの枠も超えて、『個性を理解・ 尊重する考え方』を拡げていきたいと考えてい ます。今回の助成を受け、当活動をより深いも のにすべく下記4つの目標を掲げました。【①市 民ボランティアの意識改革②障害当事者の活 躍及び福祉団体との連携③「知る」きっかけづく り④専門分野を超えた市民団体のつながり】

まだスタートラインに立ったばかりですが、身 近な人から少しずつ巻き込こみ、できることから 取り組んでいきたいと思っています。助成団体 のみなさまとも、どこかでご一緒できることを楽 しみにしています。













富岡サロンジュピのえんがわ(横浜市) 代表 高橋 秀子 助成金額 200,000円

団体紹介

設立年月

2016年3月設立

団体の目的・活動内容

地域住民の多世代間にわたる交流と、安心して住め る町づくりのため、駄菓子やを核とした、誰でもが共有できるお茶の間(サロン)を運営する。

●子供の居場所 駄菓子やの運営。伝統行事の継承 等

→,。 ●多世代交流 地域の人々の憩いの場、交流の場と

してサロンを運営する。 予育て支援 主に多くの母と子(未就園児)が集い、 情報交換ができる場所の提供

活動歴

●こどもの日スペシャルとして毎年5月5日に昔遊びとカ レーパーティを実施。 ●毎年7、8月に子どもたちの夏休みを応援するワーク

●毎十パンパー・-ショップを実施。 ●毎年春と秋に地元の中学校茶道部とのコラボでお茶 会を実施。 ●毎年秋にミニコンサートを開催

●毎月の定期のパゾコンや健康体操、手芸、陶芸等の教 室の実施。 ●有料ボラン

*、*ティアによるお助け隊の派遣。

●地元の夏祭りなど、イベントへの駄菓子コーナーの出 張販売、等。

団体情報

住所: 〒236-0051

横浜市金沢区富岡東3-14-47

TEL: 045-294-2947

Mail: jupi_no_engawa@tc4.so-net.ne.jp

URL: jupino-engawa.com jupino-engawa.jugem.jp

★助成した事業・活動

富岡サロン ジュピのえんがわ

★内容

地域住民の多世代間にわたる交流と安心して住める町づくりのため、駄菓子を核とした、誰でもが共有できるお茶の間(サロン)を運営

★助成対象

家賃の一部、イベント費用、物品購入費

助威をうけて・・・の思い・メッセージ

この度は、助成を頂き誠にありがとうございま した。地域の誰もが気軽に集えるコミュニティサ ロンとして立ち上げてから今年でまる5年になり ますが、昨年からのコロナ禍による外出自粛要 請で、サロンに足を運んでくださる方も少なく、 ましてやイベント等も開催できず、資金不足に 悩んでいた折、貴団体様と出会えたことを感謝 しております。

今回は故障したエアコン取替えと5周年感謝祭の開催費用ということで助成を頂き誠にありが うございます。お陰様でエアコンも付け替える 事ができました。感謝祭も当初予定していた大きなイベントは先延ばしとし、今できる事を考え、皆さんに喜んでいただけるような計画を立てて おります

らります。 サロンも現在はできうる限りの感染防止策を サロンも現在はできうる限りの感染防止策を 講じながら細々とではありますが開いておりま す。行き場のないシニアの方々、子育て中の親 子連れなど少しずつですが来ていただけるよう

になっています。 これからも常に初心を忘れず、地域の人々のつ ながり、顔の見える関係がつくれるような居場 所作りを目指してスタッフ一同がんばっていく所 存です。







財団を応援する「賛助会員」募集と「福祉たすけあい基金」への寄付のお願い

登 賛助会員募集

公益財団法人かながわ生き活き市民基金は、助成事業(福祉たすけあい基金、エラベル)、研修・セミナー事業(フォーラム開催、報告書発行)、相談・助言事業(フードバンク支援業務受託、遺贈・生前寄付)、広報事業の4つの事業を行っています。かながわ生き活き市民基金では、当財団の活動を継続的に支援してくださる「賛助会員」を募集しています。賛助会費は財団の運営に活用します。 賛助会員としてかながわ生き活き市民基金への応援をお願いします。

<会費>

個人会員 年会費 (1 口 1,000 円) 1 口以上 法人・団体会員 年会費 (1 口 10,000 円) 1 口以上

- 賛助会費は当財団への寄付となり、税制優遇処置の対象となります。
- 賛助会員として支援いただくと下記のような特典があります。

<会員特典>

- ・ 年次報告書の送付
- ・助成団体報告書「福祉たすけあい基金 BOOK」の送付
- ・フォーラム報告書の送付
- ・ 当財団が企画開催するイベントへのご招待(フォーラム、贈呈式)

```
公益財団法人かながわ生き活き市民基金 賛助会員規程
(目的)
     第1条
            この規程は、公益財団法人かながわ生き活き市民基金(以下この法人という)の事業の発展のために協力する賛
     助会員に関して、必要な事項を定めることを目的とする。
(資格)
     第2条
            この法人の目的に賛同し、その事業に協力しようとする個人又は法人は、会員になることができる。
(入会)
     第3条
            会員になろうとする者は、所定の入会申込書を提出しなければならない。
     (会費)
     第4条
           会費は入会時に年会費を納入し、以降、年会費を毎年納入しなければならない。
    2. 年会費は次のとおりとする。
(1) 個人賛助会員 1 ロ 1,000 円 1 ロ以上
(2) 法人・団体賛助会員 1 ロ 10,000 円 1 ロ以上
    3. 会員が納入した年会費は、いかなる理由があってもこれを返還しない。
(特曲)
       会員はこの法人が提供する次の情報・サービスを受け取ることができる。
第5条
1.年次報告書 2フォーラム報告書 3. 助成団体報告書
4.この法人が企画開催するイベントへの招待
 (退会)
    、 会員は退会届を代表理事に提出し、任意に退会することができる。
2. 会員は次の事由により資格を喪失する。
     2. 云貝は次の事由により負権を表でする。
(1) 法人の解散又は個人の死亡
(2) 会員が正当な理由なく年会費を滞納し、かつ催告に応じないとき。
(会費の使途)
    第7条
           会費はこの法人の公益目的事業を推進するための活動費用(事業費・管理費)に使うもとのとする。
(改正)
第8条
       この規程の改正は、代表理事が理事会の決議を経て行う。
 附則
1. この規程の施行に関し、必要な事項は別に定める
2. この規程は 2018 年 8 月 11 日から施行する。
```



「福祉たすけあい基金」への寄付のお願い

神奈川県内で福祉たすけあいの市民活動支援へのご寄付をお願いします。

公益財団法人かながわ生き活き市民基金では、毎月 100 円の寄付(手続き上、年間分一括振込)をお願いしています。寄付金のうち 65%を「福祉たすけあい基金」の助成金として活用します。また、35%は公益財団法人の運営費(管理費、広報費、市民活動のネットワーク費など)として使わせていただきます。現在 1 万人を超える方々が継続寄付に賛同されています。

年度の事業活動報告書は財団のホームページからご覧になれます。

賛助会員・福祉たすけあい基金」への寄付申込方法

30 ページの申込用紙に必要事項をご記入いただき、

①郵送、②ファックス (045-620-9045)、③E-mail、のいずれかで当財団まで送付ください。

住所: 222-0033 横浜市港北区新横浜 2-2-15 パレアナビル 6 階

FAX: 045-620-9045 迄

E-mail: info@lively-cituzens-fund.org

上記手続きが済みましたら以下の方法にてご入金をお願いいたします。

●郵便振替

記号番号 00250-0-72370

公益財団法人かながわ生き活き市民基金

●銀行振込

中央労働金庫 新横浜支店(334) 普通 3603639 公益財団法人かながわ生き活き市民基金 通信欄に「賛助会員」、 「福祉たすけあい基金」の いずれかを記入ください。

●現金書留

送付先: 〒222-0033 横浜市港北区新横浜 2-2-15 6F

公益財団法人かながわ生き活き市民基金 行

税制優遇が受けられます

公益財団法人かながわ生き活き市基金へのご寄付は、確定申告により以下の様に税制上の優遇措置を受けることができます。

所得税控除・・・・・・・・・・・・・・・・・・(公益法人への寄付総額-2,000 円)× 40% 県民税・市町村民税控除 ・・・(同上) × 10%

例:横浜市在住の方が10,000円をご寄付された場合

 $(10,000 円 - 2,000 円) \times 50\% = 4,000 円が控除されます。$

詳しくは財団ホームページか、お住まいの自治体・税務署でご確認ください。



賛 助 会 員・福祉たすけあい基金寄付 申 込 書

貴財団の趣旨に賛同し、(賛助会員・福祉たすけあい基金寄付)に申し込みます。

※この用紙をファクス (045-620-9045) または郵便でお送りください。

※この用紙を当財団ホームページからダウンロードして、メール送付でも結構です。

申込年月日*	20	年	月	日						
申込種別*		賛助:	会員(個	人)		賛助会員(法人·団体	本)	□ 福祉たすけ	あい基金寄付
ご氏名*		ガナ)								
(法人/団体名)							(法	.人•団体	の場合、ご担当者:)
ご住所*	₹									
TEL*						F	-AX			
Eメール										
ホームペー	ジや広幇	最物への	お名前の)掲載*		□可]匿名希望	
メールマガジンや広報物の送付、イベント案内など*		など*	□必要		メール	マガジンのみ必要	□不要			
-	メッセージなど 自由にお書きください									
*印は必ずご記入ください。										
□ 賛助会員 (個人会費)			<u>1 🗆</u>		(引以上、何ロで 引〜翌年3月と				
□ 賛助会員 (法人·団体	;)	申込口数 ()口 <u>1 口10,000 円以上、何口でも</u> ※会員の期間は、4 月~翌年 3 月となります。								
□ 福祉たすけ 基金への名		・ 寄付金額 ()円 1,200 円以上、いくらでも								
領収書発行	Ī	※当財団への賛助会費・福祉たすけあい基金への寄付 は寄付控除の対象となります。 □必要 □不要								
お支払い 方法		002	郵便振 記号番号 250-0-72 公益財団活	370		口ろうき 。 新横浜支店(普通 36030 き活き市民基	(334) 639		□現金書留	口手渡し

第13期 福祉たすけあい基金贈呈式&第6期 エラベル報告会を開催しました



11月21日(土)新横浜オルタナティブ生活館にて生活クラブ共済たすけあい委員会と共催で開催しました。コロナ禍で5か月遅れの開催となりましたが、福祉たすけあい基金助成団体12団体、エラベル助成団体2団体、生活クラブ組合員等が一堂に会し、オンラインでの参加も含め約50名が参加しました。

第13期助成は新規事業の立ち上げを応援する「スタート助成」に当たります。上限40万円の助成を最大3回まで申請できることが特徴で、新規事業の基盤づくりを応援する伴走支援型のプログラムです。子ども・子育て、居場所づくりなど地域の課題に着目し、多様な分野の活動におおぜいの力で課題解決に取り組む活動支援をしています。今期初回申請をした、聴覚障がいに対する啓発活動に取り組む「クローバーの会」からは、自身も聴覚に障がいを持つ木村健代表から、手話通訳者を介して気づきにくい災害時の課題について報告を頂きました。また、継続助成団体からは、活動の幅を広げ、地域になくてはならない活動としてステップアップしている様子が報告されました。福祉たすけあい基金助成は生活クラブ組合員を中心とした市民からの毎月100円の継続寄付を原資としています。団体報告を通して100円寄付が地域の様々な活動応援につながっていることを知る機会となり、活動を称えるたく

今後もコロナ禍のもとでの活動が続くと予想されますが、おおぜいの市民の力と知恵によって様々な地域の課題を克服し、豊かなまちづくりが進んでいくと期待がふくらみます。

第13期福祉たすけあい基金 助成団体一覧

- ■ワーカーズ・コレクティブわにわに(大和市)
- ■クローバーの会(相模原市)

さんの応援メッセージも寄せられました。

- ■(特非)みんなの居場所よこすか(横須賀市)
- ■おはなしの風(横浜市)
- ■ら・ぱれっと(茅ヶ崎市)
- ■横須賀まちの保健室プロジェクト(横須賀市)
- ■(特非)おでかけ綾瀬(綾瀬市)
- ■ぱくぱく食堂(綾瀬市)
- ■(特非)結の樹よってけし(清川村)
- ■子どもひろばみらい(鎌倉市)
- ■ひだまりの家プロジェクト(座間市)
- ■つばき学習会(川崎市)

第6期エラベル助成団体

- ■(特非)ワーカーズ・コレクティブメロディー
- ■(特非)ワーカーズ・コレクティブわっか



横須賀まちの保健室プロジェクト小松さんへ 篠崎みさ子生活クラブ神奈川理事長より 目録授与



結の樹よってけし岩澤克美さんへ 山本千鶴子横浜北生活クラブ理事より



挨拶する吉村恭二理事長



選考委員会講評 君島周子副委員長 (生活クラブ神奈川副理事長)





発行:公益財団法人 かながわ生き活き市民基金

〒222-0033 神奈川県横浜市港北区新横浜 2-2-15 パレアナビル 6 F

Tel: 045-620-9044 Fax: 045-620-9045

 ${\tt Mail: info@lively-citizens-fund.org}$

URL : http://www.lively-fund.sakura.ne.jp

 ${\tt Facebook:http://www.facebook.com/livelycitizensfund}$

発行日: 2021年3月31日